

## TICAD7 とアフリカ開発銀行<sup>1</sup>

2019年8月28日～30日、横浜で第7回アフリカ開発会議（TICAD7）が開催された。

TICAD7には、アフリカ開発銀行から、アデシナ総裁、ンメヒエレ事務総長、トゥーレ特使、シェリフ副総裁（地域開発担当）、ツァバララ副総裁（財務担当）、モンガ副総裁（経済ガバナンス・ナレッジマネジメント）兼チーフエコノミスト、ブランキ副総裁（農業・人的資源・社会開発担当）、オラドクン広報局長、戸田民間農業局長、ディバワダ人間開発局長を初めとして、多数の職員が来日した。アフリカ開発銀行から本会合に出席できるのは2名のみであるが<sup>2</sup>、計30名を超える職員がサイドイベントとして開催された多数のセミナー・シンポジウムに参加し、またこの機会に行われた日本の各パートナーとのバイ面会に臨んだ。

たとえば、「官民ビジネス対話」の題名の下、TICAD史上初めて民間企業を公式なパートナーと位置付け、アフリカの官民と日本の官民が直接対話する歴史的な場となった全体会合3（8月29日開催）では、国際機関の代表としてアデシナ総裁が登壇した。アデシナ総裁は、「アフリカはもはや開発支援対象として見るべきではない。投資先として見るべきだ」と述べ、アフリカへの積極的な投資を呼びかけた。

ジェトロが開催したサイドイベント「日本・アフリカ ビジネスフォーラム」（8月29日開催）では閉会の挨拶を行い、当行が

昨年初めて開催したアフリカ・インベストメント・フォーラムの成果を強調し、第2回フォーラム<sup>3</sup>への更なる日本企業の参加を呼びかけた。



（2019年8月29日「日本・アフリカ ビジネスフォーラム」におけるアデシナ総裁登壇 ©AfDB）

今回のTICAD7の特徴の一つが、多種多様なサイドイベントである。セミナー・シンポジウム等の公式サイドイベントは約140にのぼったと言われている。その多くが一般にも公開され、TICADのオープンさを感じることができたのは特筆すべきことだろう。

アフリカ開発銀行も、公式サイドイベント「Innovation towards Human Capital Development for Africa（アフリカの人間開発に向けたイノベーション - 教育・職業訓練、栄養、保健、若年者雇用に係る取組みの一例）」（8月29日開催）を主催し、セネガルのマッキー・サル大統領、アンゴラのマリア・カンディダ・テイシェイラ教育大臣を初めとする多数の参加者の下、アフリカの人材開発における革新的なアプローチやプログラム、各事業等について議論を行った。

更に、アデシナ総裁は、安倍総理大臣の出席を得て行われたササカワ・アフリカ財

<sup>1</sup> 本稿執筆は2019年12月。言及した各人の所属・肩書き等は、2019年8月のTICAD当時のもの。

<sup>2</sup> 但し、民間を含む多くの参加が認められた全体会合3などを除く。

<sup>3</sup> TICAD7の約2か月半後である2019年11月11日～13日に、南アにおいて第2回アフリカ・インベスト

メント・フォーラムが成功裏に開催され、会期中、56案件、総額676億米ドル（昨年に比べ44%増加）のディールについて協議が行われた。その結果、今年は、52案件、401億米ドルについて、投資意欲が確認された（昨年は378億米ドル）。

団主催 TICAD 公式サイドイベント「アフリカ農業と未来—若者の力と農業ビジネス—」で基調講演を行った他、STSフォーラム主催「日-アフリカ ワークショップ—科学技術とイノベーションによる連携の強化—」、アフリカ連合委員会、アフリカ開発銀行、国連世界食糧計画、外務省共催「日本企業とつくるアフリカの未来—デジタル時代の農村経済と持続可能な農業—」、IFC・アフリカ開発銀行・ジェトロ共催「デジタル・アフリカ 2030：デジタル技術がもたらすビジネス・チャンス」等で登壇し、当行の取組みについて紹介した。

また、アフリカ開発銀行は、財務省主催 G20 アフリカとのコンパクト (Compact With Africa) セミナー、国土交通省主催第 2 回日・アフリカ官民インフラ会議、横浜市・JICA 主催シンポジウム「女性と少女が変えるアフリカの未来」、JICA・NEPAD 主催「イノベーションを通じたアフリカの社会・経済構造転換」、三井住友銀行主催「How to mobilise private sector investment for sustainable infrastructure development in Africa and the role of the financial sector」、赤十字国際委員会 (ICRC) ・早稲田大学主催公開セミナー「世界をよくするビジネス —アフリカにおける人道支援の課題と民間セクターへの期待」等のサイドイベントに参加し、担当分野の各副総裁らが登壇した。

TICAD7 に際して当行が後援を行ったイベントの中には、ファッションショー・エンターテインメントイベントである「Tokyo Africa Collection 2019」も含まれる (9 月 1 日開催)。当行でも 2015 年に Fashionomics イニシアチブを立ち上げ、雇用創出、工業化、地域統合、起業支援、平

等社会の実現のための鍵としてアフリカのファッション産業育成を支援している。

その他にも多くの公式サイドイベント・パートナー事業について、主催・共催・後援などの形で関わった。



(2018 年 11 月 29 日 Pre-TICAD7 セミナー<sup>4</sup>©AfDB)

加えて、当行は、TICAD 会場であるパシフィコ横浜内に 2 か所のブースを設け、活動の広報やビジネス案件の発掘に努めた。インターコンチネンタルホテル内にも別途会議室を設ける等して、民間企業等とのビジネスミーティングを 60 件以上実施した。まだ具体化していないが、TICAD7 を契機としたビジネス案件の進展に向け、動いているところである。

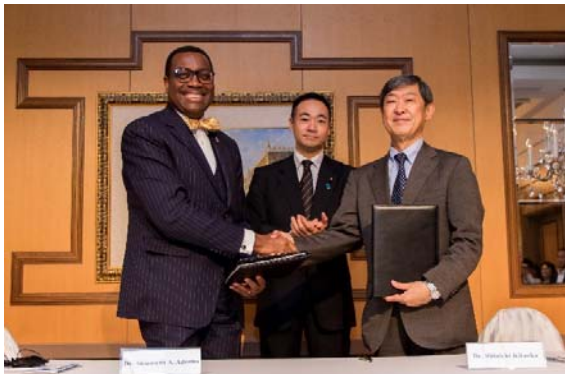


(TICAD7 メイン会場内の当行ブースでの様子©AfDB)

最後になるが、TICAD7 におけるアフリカ開発銀行の最も大きな貢献は、「アフリカ

<sup>4</sup> アフリカ開発銀行アジア代表事務所では、2018 年～2019 年にかけて数回にわたり都内で Pre-TICAD7 セミナーを開催 (TICAD7 パートナー事業)。

の民間セクター開発のための共同イニシアティブ」第4フェーズ（EPSA4）のローンチであろう。これは、日本および当行が共同で35億米ドルを目標額とする資金協力を行うもので、電力、運輸及び保健を重点分野とし、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」や「途上国におけるUHCファイナンス強化の重要性に関するG20共通理解」に沿ってプロジェクト・プログラムを形成・実施することに合意したものである。アフリカ諸国に民間投資を呼び込むことを目的としたビジネス環境の改善や整備のための支援も行われる。



(2019年8月30日EPSA4ローンチセレモニー ©AfDB)

TICAD7でのスピーチの中で、アデシナ総裁はこう述べた。「Japanese companies should not only be at the table - they should be on the ground in Africa. (日本企業におかれては、議論の場に参加するだけでなく、アフリカの現場でビジネスをしてほしい。)」

アフリカ開発銀行は、民間企業に対して、ローン、保証、エクイティ等様々な金融商品を提供している。アフリカにおいて日本企業との協働をますます深化・拡大していきたいと期待している。



(2019年2月14日Pre-TICAD7セミナー<sup>5</sup> ©AfDB)

(アフリカ開発銀行アジア代表事務所  
外・広報担当 須賀美奈子)

---

<sup>5</sup> TICAD7 パートナー事業